

4月
2019年

148号

地域共創・未来共創の大学へ

広 沖縄大学 報

発行

沖縄大学経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎ 098(832) 2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>

盛

口

満

新

学

長

沖縄大学 第24代学長に就任

新入学生へのメッセージ

「新学長として、新入学生へのメッセージをお願いします」と言われた。さて、なんだろう。

「誰かのために学ぶ」

そんな言葉が浮かんできた。なぜ学ぶのか。人によって、それぞれ違いはあるだろうけれど、すぐに思いつくのは「将来の夢を実現するため」とか「勉強しないままだと将来が不安だから」といった理由付けじゃないだろうか。勉強をすると、自分のためになる。勉強をしないと、自分のためにならない。自分自身を振り返っても、そう思っていたし、今でもそう思うところがある。

でも、それって、本当？という疑問を、思想家の内田樹さんは投げかけている。だって、自分のためになると言われても、勉強が嫌だという生徒・学生は珍しくないし。なぜなのだろう。

内田さんは言う。自分のための勉強は、「自分がいいやと思えば、そこですぐにやめられる」と。勉強をすると、将来いいことがあると言われても、そんなことどうでもいいかなと思った時点で勉強にたいするモチベーションは下がってしまう……と。だから、人間が努力するのは、じつは「誰かのため」に働くときだと内田さんは言っている。「自分のために戦う人間は弱く、守るもののために戦う人間は強い」とも。

将来の夢を実現するために勉強をする……と言ったとき、その将来の夢とはなんだろうか。例えば入学希望の面接で、「子どもたちが楽しい学校生活を送れるような、もし悩んでいる子どもたちがいたら寄り添えるような教員になりたい」と口にする受験生がいる。また、「沖縄の人々が再び長寿を取り戻せるように勉強をしたい」と口にする受験生にも出会ったりする。入学後に、そうした思いに、大きな力があることを確認しあえる学びの場にはできないだろうか。沖縄大学が大学憲章に掲げる「地域共創・未来共創」とは、そうした思いから始まることではないだろうか。

ただ、僕にも、すぐには、どういうことをしたらいいのかわからない。でも「誰かのために学ぶ」とはどういうことかを考えたいと思っている。



健康栄養学部 管理栄養学科

新入教職員
紹介



管理栄養学科に着任して

【教員】新城 澄枝 (応用栄養学)

応用栄養学では、人間のライフサイクルにおける各ステージ別の生理的・身体的・精神的変化の特徴を理解した上で、個々の対象者の生活環境、身体状況や栄養状態に応じた健康増進のための栄養管理のあり方を学びます。更に、各ステージ別に特徴的な疾患や想定される有害事象に応じた栄養管理のあり方についても修得します。

科学的根拠と高度な技術をもって行う栄養の指導(食事の提供、栄養指導、栄養状態の管理)は、体内の代謝を改善してQOLの向上をもたらします。学生の皆様と共に日々研鑽し、専門職としての意識の向上とエビデンスの構築に貢献したいと思います。



人間栄養学の観点から クライアントを支援できる学生教育

【教員】新垣 慶子 (栄養教育論)

私は、約35年間病院の栄養・給食管理に携わってきました。主な担当科目は「栄養教育論」です。長年病院で培ってきた経験と教員として求められる役割りを常に念頭において物事を進めたいと思っています。

「食べるために生きているのではなく」「幸せな人生を生きていくために食べる」の名言があるように、「栄養教育論」を通して、クライアントを「まるごと」とらえる人間栄養学の観点から、健康と生活、人生の質の向上に貢献できる学生を育てることに力を尽くしたいと思います。



「沖縄の健康・食」の過去・現在・未来を育む 地域に根ざした管理栄養士養成を

【教員】逸見 幾代 (公衆栄養学)

豊かな自然、伝統文化、食文化に恵まれた沖縄の健康教育「管理栄養士養成」に、光栄にも参画させていただくことになりました。約半世紀、管理栄養士・栄養士養成に携わってきた私は、沖縄の健康様相、健康課題、QOL向上に本領を発揮できる管理栄養士の育成、輩出を願って、着任しました。

沖縄の伝統食文化を踏襲しながら「過去・現在・未来」をつなぎ、地域の一人ひとりの健康実現を次世代へと展開していくような「公衆栄養活動」が展開できればと考えています。学生と一緒に「よりよい学び」を創造し、学びによる成長の様子を可視的にできるように、「場に応じて臨機応変に対応できる柔軟で骨太で心身ともにパワフルな管理栄養士となるための育ち」を一步一步着実に進めていきたいと思います。



必要とされる管理栄養士の育成

【教員】國仲 小織 (臨床栄養学)

大学卒業後31年間、病院で管理栄養士として栄養の指導に従事し、地域の皆様の健康管理に努めてまいりました。そしてこの度沖縄大学で管理栄養士養成に携わる機会を得ることとなり感謝しております。

沖縄大学では、学生の皆様卒業後「食と栄養の知識と技術」を活かし、健康のプロフェッショナルとして様々な分野で必要とされ、人々のQOL(生活の質)を高めることで社会貢献できるよう、主体的に学び実践できる教育を心がけたいと考えています。宜しくお願い致します。



明るく笑顔で頑張ります

【助手】玉城 あさ香

管理栄養学科で助手として就任いたします。これまで、健診センターやクリニックで利用者や患者様への栄養指導に携わってきました。その他、部活動生への栄養サポートも行って、現在、公認スポーツ栄養士の資格取得に向け勉強中です。就任するにあたり、将来、沖縄県を中心に活躍される管理栄養士の養成に貢献できるよう努力いたします。また、私自身も日々成長することを忘れず、学生の皆様と共に学んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



食と健康のスペシャリスト養成を支えたい

【助手】城間 かおり

ご縁あって、今年度新設される管理栄養学科に助手として勤務させていただきますことになりました。琉球大学教育学部生涯健康教育コースを卒業し管理栄養士の資格を取得後、北中城若松病院で高齢者医療を支える栄養管理を行ってきました。現在は沖縄大学大学院地域経営専攻の2年次でもあります。社会人を経ての学生生活は、問題意識を持った各方面の方と知り合い、よい刺激をいただいています。食と健康のスペシャリスト、管理栄養士養成のため、先生方や学生をサポートできるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



皆さんの充実した大学生活のために

【助手】知念 咲香

私はこれまで、他大学の管理栄養士養成課程に助手として勤めてまいりました。主な研究分野は公衆栄養学で、地域の健康な個人・集団に対する食事調査や栄養教育に取り組んでおり、今後は沖縄県内をフィールドに調査を実施し、県民の健康増進ならびにQOL向上に寄与できるような研究活動を行いたいと考えています。

そしてなによりも、学生の皆さんの大学生活が実りあるものとなる様、精一杯サポートをしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



管理栄養学科着任にあたって

【教員】安田 正昭 (食品学総論)

この度、本学に新設された管理栄養学科の食品科学分野で教鞭をとらせていただくことになりました。管理栄養士・栄養士は栄養と食のエキスパートであり、「栄養指導」を通して人々の健康をサポートする重要な使命があります。食品科学はその基礎となる分野ですので、講義と学生実験を通してその基礎固めができればと思います。

研究では、本学の「地域共創・未来共創」の理念のもと、沖縄の食品素材を活用し、研究者間、地域連携による沖縄大学らしい成果を出したいと思います。



「健康栄養学部管理栄養学科」の設置 おめでとうございます

【教員】新城 正紀 (健康管理学概論)

健康栄養学部管理栄養学科の設置、誠におめでとうございます。管理栄養士は、病院、学校および地域において、栄養指導、食事指導および栄養相談などを行っており、その活動は人々の健康と栄養および公衆衛生の観点からも重要であると考えます。私は、昨年末、管理栄養学科教授への就任のお声掛けをいただき、家族と相談の上で受諾いたしました。前任の大学を早期退職して沖縄大学に転任しました。沖縄県の子どもの夢を叶える応援と人材育成に参画できますことを心から嬉しく思います。沖縄大学のさらなる発展に尽力したいと思います。



新学科着任にあたっての抱負

【教員】宮良 恵美 (臨床検査学概論)

幼少時から食と健康に関心があり、臨床検査技師を志した大学の卒業研究で「栄養学」に出会いました。食物が生体内で代謝され、私達の体が毎日作り変えられることは当然のことですが、その巧妙な仕組みに魅せられました。また、食品成分が様々な生体調節機能を発揮することが大変興味深く、細胞や動物〜ヒトを対象にその効果を科学的に検証して、作用機序を研究する道に進みました。管理栄養士を目指す学生さんとともに勉学に励み、教育・研究活動を通して、沖縄大学や地域に少しでも貢献していきたいと思います。



沖縄大学で「子ども×沖縄×食」の 可能性を探る、創る

【教員】我那覇 ゆりか (給食経営管理実習)

私は給食経営管理学を専門とし、学校給食の領域について研究しています。日本の学校給食の実施率と品質は世界一と言っても過言ではありません。さらに、栄養教諭による食育は、世界的にも先駆的な取り組みです。そんな学校給食を切り口にして「子どもの健康づくり＝沖縄の活性化」を念頭に研究を展開し、子ども×沖縄×食の可能性の探求に邁進する所存です。また、学校現場との連携や地域貢献を通じた深い学びから実践力と沖縄力に満ちた管理栄養士の育成を目指し、子ども×沖縄×食の可能性をさらに創り広げていけたら本望です。



新学期着任にあたっての抱負等

【教員】金城 由希子 (食品学総論実験)

本年度から、県内唯一の管理栄養士養成施設の一員として職務に就けることを光栄に思います。私は、県内の栄養士養成施設を卒業後、進学し、大学院にて沖縄特産物の食品機能性について研究してきました。本学では、大学・大学院で学んだ知識や経験を活かし、沖縄県を中心とした様々な場で活躍できる管理栄養士の育成に貢献していきたいです。また、まだ駆け出しの指導者・研究者であるため、地域食材の利用につながる研究活動に加え、学生と真摯に向き合い、国家試験に向けた学生の知識・技術習得をサポートしていく中で自身もさらに成長していきたいです。



食のスペシャリスト育成に向けて

【助手】古堅 由紀子

私はこれまで、調理師、歯科衛生士、保育士、看護師の養成校で「栄養学」の授業を約20年担当してまいりました。「食と栄養」は、日々の生活に欠かせない「生きる力」となる重要な基盤であり、栄養の知識はもとより食文化の継承にも管理栄養士・栄養教諭の役割は大きなものがあります。本大学の建学の理念「地域共創・未来共創の大学へ」を踏まえ、地域に根ざした健康活動、さらに食物アレルギーなど個々に合わせたオーダーメイドの栄養管理や栄養指導ができるスペシャリストの育成が益々必要となります。目標に向かって前進できるよう学生に一番近い助手の立場から力を尽くしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



自己紹介と抱負

【助手】長嶺 愛香

私は琉球大学医学部附属病院にて勤務し、栄養・給食管理、栄養指導、NST、緩和ケアの栄養管理業務に携わりました。大学病院では乳児から高齢期にかけて、様々な疾患に対応した栄養管理・栄養指導が求められる為、症例から学ぶことも多く、多職種と連携しながら従事し、食・栄養を通して患者様を支援することにやりがいを感じておりました。ソフト食、腹脹透析食の立ち上げに携わったことも思い出深いです。今回、御縁あり沖縄大学に助手として就任いたしますので、管理栄養士として未来に羽ばたく学生の育成に貢献できるように尽力いたします。

1 新学部 健康栄養学部 管理栄養学科が 2019年4月開設します!

沖縄県ではじめてとなる管理栄養士養成学科誕生です。3月19日には、大学内に新設された新学部ビル(4号館)の竣工式も挙行されました。4号館には、講義室はもちろん、実習室、解剖実習室、調理室等、最新の設備が導入されています。新学科の学籍番号を示すアルファベットは「N」、新入生約80名を迎え新たな沖縄大学の歴史がスタートします。(新学部の教職員紹介は次頁をご覧ください。)



新学部長挨拶

【学部長】山代 寛 (解剖生理学)

長寿社会沖縄の復活は、県政の重要施策であり、沖縄県のバックアップを受けて開設された本学部は沖縄県で唯一の管理栄養士養成施設です。大学の建学の理念「地域共創・未来共創の大学へ」を踏まえ、食と栄養の面から地域の人々の健康を支える専門教育を目指します。栄養ある一期生とともに新しい学部、新しい大学、新しい沖縄を創り上げていきたいと願っています。



2 新体制でスタートです!

沖縄大学は2019年4月より新学長盛口満先生のもと、大学執行部(副学長兼健康栄養学部長:山代寛教授、副学長兼図書館長:小野啓子教授、学生部長:島袋隆志准教授、教務部長:吉本篤人教授)を中心に大学運営に取り組みます。2019年度は新しく誕生した健康栄養学部が、沖縄大学の新たな目玉学部となり、大学全体を盛り上げていけるよう、教職員一丸となり努めて参ります。



3 新規加盟!

2019年、沖縄大学はわった〜バス党法人党員に加盟しました。エコキャンパス宣言などを通して、公共交通機関の利用を推奨していた本学は、わった〜バス党の活動に賛同し、共に沖縄の交通事情を考え、地球のエコ活動に協力し続けます!



4 広報誌が新しくなります!

広報誌創刊から40年を迎える今年度、沖縄大学の情報を広く周知できるようにと、手にとりやすいサイズでの印刷物の発行を試みます。若い世代の方々にも沖縄大学の魅力が伝わるように工夫を凝らしチャレンジし続けます。もちろん、これまでの『広報誌』も継続して発行します。今後とも、沖縄大学の学生の活躍、そして学内の取り組みを紹介していきますので、ご愛読いただけましたら幸いです!



沖縄大学⇄那覇バスターミナル 周辺の素敵なお店のご紹介!



食べる
上泉バス停すぐ
【オハコルテベーカリー】
営業 7:30～20:00
休 不定休
住 那覇市泉崎1-4-10 喜納ビル1F

美味しいパン、スイーツ、そしてパンに合う料理や飲み物を提供しています。早朝からオープンしているのでウキウキの1日のスタートに相応しいお店です。田場さんお勧めは、「デリプレート」! スープやデリメニューが選べる心躍る一品です。



このフレンチトーストが大好きです!
Yummy



買う
那覇バスターミナルすぐ
【OPA】
営業 10:00～21:00
住 那覇市泉崎1-20-1 カフーナ旭橋A街区

2018年10月にオープンした都市型商業施設OPA! 約50ショップのうち25ショップが沖縄初出店で、沖縄独自の食やカルチャーと世界発信の最新トレンドの融合を目指し、「飾・食・磨・楽・輝」をテーマにしたトレンドショップが集積しています。田場さんはOPAのCMにも出演中です!



見る
那覇バスターミナルすぐ
【沖縄県立図書館】
営業 9:00～20:00
休 火曜日・年末年始
住 那覇市泉崎1-20-1 カフーナ旭橋A街区

2018年12月にリニューアルオープンした沖縄県立図書館。広さは旧館の2倍、蔵書冊数は約87万8000冊、さまざまな利用者のニーズに応えている魅力ある図書館です。バスターミナルと同じ建物にあり、アクセスが良く、開放感のある吹き抜けのエントランスホールやカフェのように洗練された空間の中で、本をゆっくり読むことができます。



買う
那覇バスターミナル向かい
【module】
営業 10:30～19:30
休 水曜日
住 那覇市旭町116-37 沖縄県南部合同庁舎1F

上質な時間が流れる素敵な店内には、オーナーが厳選した文具、雑貨や家具が並び、普段使いはもちろん、プレゼントとして贈りたくなる逸品が揃っています。moduleとは長さや時間などを表す「基準単位、尺度」という意味。個々の価値観や好みで「モノ」を選べ、そして使えるという意味付けをしているお店は、ゆっくりとモノに向き合える空間です。



食べる
おもろまち駅前バス停から徒歩10分
【楽ロビ kitchen.】
営業 【月火水】11:00～17:00
【金土日】11:00～21:00
休 木曜日
住 那覇市真嘉比1丁目29-16 プランシユール

身体にも自然にも優しい自然栽培野菜と無添加調味料を使った料理を提供しているこのお店は美や健康を常に追求している田場さんお勧めの穴場スポットです。
※楽ロビとは、マクロビオティック(玄米菜食)を日々の生活に「気楽」に「楽しく」「おしゃれ」に取り入れられるようにした食事法です。



食べる
一番人気は「I LOVE ♥ ME プレート」
この日のメニューはアマサスのマリネや玄米ビーフンの白練りゴマ和え、おからコンニャクの和風あぶりチキン風。動物性食品を使わずに新鮮な野菜等が中心!
身体が軽くなる! いち押しメニューです。(by 田場)

バス利用のご案内



【那覇おもろまち線】
新都心・久茂地へのアクセスに便利!
おもろまち駅前広場⇄沖縄大学前⇄国場⇄古波蔵⇄県庁前⇄那覇バスターミナル



【志多伯線】
那覇バスターミナル⇄開南⇄沖縄大学前⇄糸満バスターミナル



【大里線】
那覇バスターミナル⇄開南⇄沖縄大学前⇄南風原町役場⇄大城(南城市)



【大里線・真境名経由】
那覇バスターミナル⇄開南⇄沖縄大学前⇄南風原町役場⇄大城(南城市)



【志多伯おもろまち線】
おもろまち駅前広場⇄泊高橋⇄県庁北口⇄那覇バスターミナル⇄開南⇄沖縄大学前⇄東風平⇄糸満バスターミナル

『2019年わった～バス党法人党員に加盟しました』企画! バス通学! 便利! 快適! おすすめです!



田場千樹さんのバスライフ♡



オハコルテベーカリーさんに行くと、テンションが上がります! 一番人気のハンバーグもお勧めです。

沖大キャンパスが位置する県都・那覇市。大学正門前のバス停を利用し、那覇市内へのアクセスは抜群です。タレントとして活躍している田場千樹さん(国際コミュニケーション学科3月卒業)のある1日に密着しました。

千樹さん、バス通学を満喫していました。

仕事日久茂地近辺で多いのでランチに利用します。

【オハコルテベーカリー】



授業後、卒論の作業のためPC教室でがんばります!

宮城公子ゼミではジェンダーについて学びました!



13分程で上泉バス停から沖縄大学へ到着!



2月頃はバスの車窓から与儀公園の桜も楽しめます!



PM4時半
友達と待ち合わせて...



おつかれ~

ご飯行こう!

そのまゝに図書館で資料検索したい

※沖縄大学にも素敵な図書館がありますが、沖縄県立図書館も近くて便利なんです!

【沖縄県立図書館】



「磨かれた女にセンスアップ」という本を手にとる田場さん! 自分磨きに日々努めているようです。



2018年度 卒業生・修了生特別表彰者

学長特別賞

ねまひろみ
根間 玄実

法経学科 (南風原高校卒)

本学の学生の中でも著しい向学心を持ち、日々勉学に励み、学業の面で優れた成果を残した学生であり、かつ地域や周囲への貢献を強く志す点で後進の範となる存在である。

大学で法学の学びと出会い、その面白さに惹かれることで、彼は猛烈な勉強に打ち込むようになり、2年次には宅地建物取引士(宅建)の資格試験に合格し、また、3年次には行政書士試験にも本学で最年少の合格実績を挙げた。勉学へ打ち込む姿勢はいささかも揺らぐことなく、その後、法科大学院試験に合格した。また、自己の学びに打ち込むだけでなく、周囲の学生や、そして生まれ育った沖縄に対しても支え合おうとする心を持ち、今後が期待される。



嘉数昇記念賞

ひらかわゆうと
平川 雄斗

福祉文化学科 (具志川商業高校卒)

2年次より卒業後は公務員になることを決意し、独学で勉強を始めた結果、目標としていた現役での国家公務員Ⅱ種試験合格を見事に果たした。2012年に設置された健康スポーツ福祉専攻からは、初めての現役合格者である。学業においても、2年次には基礎演習ゼミにおいて「トレーニング時に感じる身体の調子とは」のタイトルで、続く専門演習では「カロリーの増減と体重変化は相関関係であることを証明する」のタイトルで、2年間をかけて卒業研究を完成させた。緻密な研究方法は、高評価を得た。



法経学部長賞

さきまたくや
佐喜真 拓哉

法経学科 (真和志高校卒)

硬式野球部に所属し、九州地区の秋季大会連覇(2016年、2017年)に正捕手として大きく貢献し、多くの大会で輝かしい成績を取め、本学の社会的名声を高めることに大きく貢献した。

また、競技活動のみならず、学内清掃や台風襲来後の学内・地域の清掃、県内小中学校や高校との連携による各種ボランティア活動などにも積極的に励み、チームの目標である「人間成長」を実践するべく、率先してその活動に取り組んできた。卒業後は、沖縄電力株式会社へ進み、社会人野球へステージを移して新たな挑戦が期待される。



2018年度 卒業式・修了式

2学部、大学院合わせて 376名が巣立つ

3月14日、沖縄大学体育館において2018年度卒業式・修了式が挙行されました。法経学部、人文学部合わせて373名、大学院現代沖縄研究科3名が卒業・修了しました。

式では仲地博学長から各学部卒業生、研究科修了生総代に学位記が授与され、学長から告辞、城間幹子那覇市長から祝辞が述べられました。



閉会の辞では島袋隆志学生部長より、「沖大ブランドを胸にがんばり続けてほしい」とエールが贈られ、保護者や教職員、参列者全員で卒業生たちの門出を祝いました。

学長告辞 (抄録)

学長 仲地博

【60周年の年】
沖縄大学は昨年6月10日60周年を迎えました。人間でいえば還暦です。この記念すべき年度の卒業にあたり、今一度沖縄大学の歴史をお話したいと思えます。

【沖縄大学憲章】
沖縄大学は、教育研究の理念を明らかにするものとして沖縄大学憲章を定めております。その冒頭で次のように述べております。



沖縄大学は地域の課題に取り組み、この理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させることと。先ほど述べたように、地域共創は大学教育の専門家から評価される沖大の看板です。

創立から60年、沖縄大学は、2万5千人余の人材を送り出しました。今この学び舎を巣立つ皆さんは、先輩方がそうであったように、沖縄に留まる方も、県外国外へ飛び立つ方も、それぞれの未来を築く中核人材として働いていただきたいと思えます。地域共創・未来共創の担い手として皆さんを送り出します。皆さんのご健闘とご多幸をお祈りし私の告辞とします。

卒業生答辞

卒業生代表
人文学部 国際コミュニケーション学科

はなしろ かな
花城 佳奈
(普天間高校卒)

三月、春の訪れを感じる今日この頃、私たちは晴れて沖縄大学の卒業式を迎えることができました。

希望と不安で胸がいっぱいで望んだ入学式から四年がたちました。刺激を与えてくれる友人や、親身になって話を聞いてくださる先生方と出会う中で、大学で学べることの意義を、身を持って感じ、私は英語科の教職免許を取得し、海外留学や海外企業インターシッ

プなどにも挑戦しました。そんな充実した大学生活もいよいよ最後の日を迎えました。私たちはこれから社会の波に揉まれ、多くの失敗を重ねると思えます。しかし、その中から物事を分析し考える方法を、私たちは学んでいくのだと思えます。そして、社会人としての自覚を持って努力する姿勢を忘れず、進んでいくつもりです。

最後になりましたが、多くの方々の支えがあり、本日晴れて卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して心からお礼を申し上げます。沖縄大学のより一層の発展を祈って、答辞とさせていただきます。



総代



宇田 薫
現代沖縄研究科
地域経営専攻



友利 星美
人文学部
こども文化学科
(首里高校卒)



盛本 友華子
人文学部
福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻
(那覇国際高校卒)



池村 友香
人文学部
福祉文化学科社会福祉専攻
(陽明高校卒)



城間 啓司
人文学部
国際コミュニケーション学科
(沖縄工業高校卒)



比嘉 菜津美
法経学科
法経学科
(中部農林高校卒)

◆ News & Topics ◆

◆2018年度福祉文化学科実習報告会開催

(2019年2月12日)



2018年度福祉文化学科実習報告会が開催されました。

今年度は延べ88名が「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「スクールソーシャルワーク実習」を行い、実習を通して学んだこと、今後の課題について実習報告書を作成し、報告会に臨みました。

会には学生を受け入れて頂いた実習先の指導者の方々も参加され、4年間の学習の集大成となる実習報告に熱心に耳を傾け、意見やご助言を頂く場面も見られました。

福祉文化学科では、昨年度から実習体験者全員が報告を行う形式に変え、学科をあげて報告会を行うことが特色となっています。

◆こども文化学科

留送会 (2019年2月19日)



こども文化学科第9期生の留送会が開催されました。この会は、在学生が先輩の卒業を祝う会として毎年開催しています。

この日も各学年からの出し物にはじまり、4年間の思い出を映像でまとめたもの、これまでお世話になった先生方からの送る言葉等、笑いあり、涙ありの会となりました。

◆大学対抗 琉球トラウマナイト

学生コンペティションに
沖縄大学も参加!



県内4大学(沖縄大学、沖縄国際大学、琉球大学、県立芸術大学)で競い合うイベント「学生琉球トラウマナイト コンペティション(短編ホラー映画)」に沖縄大学もエントリーしました。制作を担当したのは国際コミュニケーション学科3年次具志堅善輝さんを中心とする国際コミュニケーション学科の学生4人です。

県内のプロ映像クリエイターの指導を受け完成した作品は桜坂劇場にて上映され(3月12日)、観客からの得票数と5名の審査委員の得票数を合わせた結果、惜しくも沖縄大学の作品は2位という結果で幕を閉じました。高評価を得ていた沖縄大学のエントリー作品、学内での上映会を調整していますので、楽しみにしてください。

◆ゼミナール大会開催

(2018年12月8日、14日)



法経学会ゼミナール大会(12/14)では、フィンテック革命、ベットの殺処分、ブラックバイト、連帯保証人、カツオ節...と今年も多様なテーマで各ゼミ学生による熱いプレゼンが行われました。グランプリは基礎演習豊川ゼミの「沖縄県における新たな観光客層の創出」。アレルギーフレンドリーな沖縄を目指す実践的プロジェクトの報告です。

国際コミュニケーション学科ゼミナール大会(12/8)は、3、4年次の専門演習受講生各自が、深い関心を持つテーマを調査、分析、考察したことを発表する大会です。言語、観光、国際問題やジェンダーなど様々な研究領域の中で、1つのテーマに向き合い表現する貴重な場となりました。

◆玉城デニー沖縄県知事が

ゲストティーチャーとして講義!



2019年1月28日、法経学部の講義「学問と社会」にゲストティーチャーとして玉城デニー沖縄県知事を招いての講義を行いました。

これは、キャリア教育の一環として知事のこれまでの経歴について、

県知事としての取り組み等をお話いただけたいかと、講師依頼し、実現したものです。

知事の生い立ちやラジオパーソナリティを勤めていた話、政治家の道を進み、国政、そして県政の長として取り組むことになったこと、また基地を抱える沖縄の課題や県民投票についても話は及び滅多に聴くことのできない県知事の話に、学生は熱心に聞き入っていました。

◆FC琉球所属の上原慎也選手(本学OB)が本学を表敬訪問



2019年2月14日、本学初のJリーガー上原慎也選手(2008年度法経学科卒業)が、長濱理事長、仲地学長、小野法経学部長を表敬訪問しました。

毎年、シーズン開幕前に母校を訪問してくれる上原選手。今年からはFC琉球に移籍を決め、J2元年のチームでの活躍について抱負を語ってくれました。

恩師でもある小野法経学部長は「ホーム戦は横断幕を持って応援にいきます、地元沖縄での活躍を期待しています」とエールを送りました。

2018年度 卒業生・修了生特別表彰者

人文学部長賞



かみやなるみ
神谷 成実

国際コミュニケーション学科(向陽高校卒)

児童福祉特別奨学生として、4年間学業面、課外活動に尽力を重ねた。経済的に恵まれていない状況の中、深夜までアルバイトを掛け持ちして働き、週末は奨学金を受給している渡嘉敷島にある「国立沖縄青少年交流の家」職員として勤務。同時に、非行少年のための学習サポートや生活保護世帯の子ども達へのサポートなども行って来た。さらに、カンボジアの里親奨学金に寄付をして子ども達に会いに行ったり、ベトナムのストリートチルドレンの会でもボランティアを予定したりしているなど活動の幅は海外にも広がっている。2年次にはメットライフ生命と米国大使館が主催するTOMODACHI Programに参加しワシントンを訪問、3年次に豪州ボンド大学留学。在学中20カ国以上への海外渡航経験をしている。英検準1級合格。卒業後は青年海外協力隊員として活動する。

まつだひかる
松田 輝

こども文化学科(コザ高校卒)

成績優秀で、しかも努力を怠らず、他の模範である。卒業論文は「学校と遊び ~子どもらしさとは~」に取り組み、幼児期に遊びから得た学びを、小学校へつなぐにはと具体的に論を進め、これからの教育実践に生かせる内容となっている。

3年次の後期からは、教員採用試験現役合格を目指し努力する姿が見られた。その、二次対策では、現役生、過卒生を合わせた30余名のメンバーをまとめた。

はなしら

花城 クウティン ジュモール 福祉文化学科(北谷高校卒)

2017年1月に開所した「放課後こくば子ども教室」に学生ボランティアとして関わり、その後は、学校行事と重ならない限り、すべての活動に参加して、他学生の入れ替わりがある中でも唯一中心的役割を果たした。今や子どもたちにとってはなくてはならない存在である。後輩学生の育成にも気を配るなど運営スタッフからの信頼も厚く、運営方法について積極的に学び、取り仕切る力もついている。

大学院研究科長賞



しばたただよし
柴田 忠住

現代沖縄研究科修士課程地域経営専攻(青森県 弘前高校卒)

薬局での薬剤師の仕事に携わりながら、入学後は研究成果の一部として第10回日本禁煙学会学術総会にて、演題名「沖縄の健康寿命延伸のための喫煙防止教育を含む健康教育のあり方に関する研究」について口演発表、第26回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会のシンポジウム「がん対策とタバコ対策-国・県・自治体のとりくみ」では、シンポジストとして沖縄での取り組みについて発表、また第64回日本学校保健学会学術大会では「小学校6年生を対象とした喫煙防止教育と飲酒防止教育を同じ時間帯に同時に行った場合の効果の検証」についてポスター発表をするなど学会発表を精力的に行った。さらに研究を続けたいという希望を持って千葉大学大学院薬学研究室へ入学を決めており、研鑽を積みつつ、強い倫理観と使命感を持つ氏によって独創的で社会から求められる研究がなされることが大いに期待される。

ふじわらけん
藤原 健

現代沖縄研究科修士課程沖縄・東アジア地域研究専攻(岡山朝日高校卒)

記者としてジャーナリズムに携わり、沖縄戦の最中に離島で起きた「戦争マリアナ事件」を含めた多様なテーマに取り組み、多数の著書も刊行している。入学後に学んだ成果を修士論文「『沖縄戦の記憶/記録を継承する』という思想~戦記として『土地の記憶』を描いた『沖縄戦新聞』にみる戦後沖縄の新聞ジャーナリズムから」にまとめ、その後に修士論文をベースに『魂の新聞』を発刊した。書の中では「琉球新報」と「沖縄タイムス」の沖縄戦関連の企画連載・特集をまとめ、沖縄戦関連の企画連載や特集を年表にしたのは初めての試みであり、今後、沖縄戦や沖縄戦後史の研究者に参照されることを確信する。戦争体験者が少なくなり戦争の記憶の継承が課題である中、これらの取り組みは重要であり、継承活動への理解が深まることが期待される。

現代沖縄研究奨励賞



◀ 第四次中長期経営計画

OKIDAI VISION 2028 「地域がキャンパス、

沖縄大学は2014年4月から教育・組織改革を2019年4月から、さらなる建学理念の実現と教育

沖縄大学憲章

地域共創・未来共創の大学へ

OKIDAI VISION 2028

地域がキャンパス、地域のキャンパス

～沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります～

第五次中期計画

【重点課題】

1. 沖大という場

- 1-1 地域の人々と共に学ぶ場
- 1-2 国際交流・国内交流の場
- 1-3 市民性共育、生涯教育の場
- 1-4 多様なニーズに対応した環境整備

2. 沖大の教育・研究

- 2-1 地域課題に取り組む教育・研究
- 2-2 環境の保全に取り組む教育・研究
- 2-3 学修成果の可視化と教育の質の保証
- 2-4 FDの推進
- 2-5 留学制度の推進
- 2-6 図書館、マルチメディア教育研究センターの教育・研究支援
- 2-7 大学院現代沖縄研究科との連携

3. 沖大の学生像

- 3-1 学生への多様な支援
- 3-2 対話力・共創力・実践力の育成（正課教育）
- 3-3 対話力・共創力・実践力の育成（正課外教育）

4. 沖大の新たな共創への挑戦

- 4-1 小さな大学の機動性を活かし、時代と地域の要請に応える大学
- 4-2 同窓会、後援会と大学が一体となり、地域の中核人材を輩出し続ける大学
- 4-3 学生が誇り高く躍動し、地域が共鳴して新たなステージを創り出す大学
- 4-4 教職員が互いを尊重し、一丸となって力を発揮できる職場を創り、学生の成長を支援する大学

【基本戦略】

A. 志願者

- A-1 志願者数の確保
- A-2 多様な志願者の確保
- A-3 大学院の取組

B. 中退者

- B-1 学生生活の実態把握
- B-2 全学的な支援体制
- B-3 初年次教育の充実
- B-4 大学教育の意味の問い直し

C. 社会接続

- C-1 キャリア支援
- C-2 教職支援

D. 大学運営・経営基盤

- D-1 大学運営
 - 戦略的意思決定と柔軟性ある組織運営
 - 沖縄経済同友会、沖縄県中小企業家同友会等経済界との連携強化
 - 組織力の強化
 - 三様監査体制による監査機能の強化と内部統制の確立、等
- D-2 経営基盤
 - リカレント教育の場としての地域貢献
 - 寄附金募集活動
 - 安定した財政基盤の確立と施設整備の推進
 - 人事・人材育成
 - 広報戦略の強化

から第五次中期計画へ▶

地域のキャンパス」へ向けて START!

中心に第四次中長期経営計画を実施してきました。の質の保証に取り組む第五次中期計画が始まります。

第四次中長期経営計画(2014-2018)の自己点検・評価

5つの基本戦略と12の基準で大学改革を進める中で、課題も見えてきました。

第四次中長期経営計画では、①学生募集力の強化、②魅力ある授業の創造、③中退率の減少、④就職率の向上、⑤経営力の強化、の5つの基本戦略と、大学評価基準に本学独自の基準(国際交流、環境保全)を加えた12の基準を設定し、教育改革・組織改革を進めてきました。

5つの基本戦略の関係は、「②魅力ある授業の創造」による教育改革を伸長させていくことで他の基本戦略に良い影響を与え、全体を底上げしていくというものでした。

第四次計画の終了にあたり、「内部質保証の方針と手続」

を用意し、自己点検・評価に関わる3委員会が連携する「全学内部質保証推進組織」で検証を進めました。

基本戦略のうち、「④就職率の向上」「⑤経営力の強化」が順調だったのは、教育改革の成果が影響したのか、当初のねらいを検証することができず、教育の成果をどのように表現するか課題が残されました。また、本学の理念をどう実現していくかという、長期的な計画を考える上で、「地域共創・未来共創の大学」でありたいとする理念を具体的に表現し、説明していくという課題も見えてきました。

OKIDAI VISION 2028 & 第五次中期計画(2019-2023)

4つの重点課題と4つの基本戦略でOKIDAI VISION 2028の実現を目指します。

前計画までは中長期の計画でしたが、第五次からは長期ビジョンと中期計画に分かれることになりました。長期ビジョンは大学憲章を具現化する10年後のありたい姿です。この「OKIDAI VISION 2028」を5年間の中期計画二回りで目指していこうという構想です。創立60周年の節目に、70周年を迎える10年後の沖縄大学を展望することになりました。

「OKIDAI VISION 2028」は、沖縄大学憲章を踏まえ、学生・教職員のアンケートや学外者へのヒアリングを参考に議論を重ね、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」というスローガンを掲げることになりました。その中身は、①沖大という場、②沖大の教育・研究、③沖大の学生像、④沖大の新たな共創への挑戦、です。

第五次中期計画は長期ビジョンを実現する計画であると同

時に、前計画の自己点検・評価を踏まえた伸長策・改善策から成っています。第五次は二つの柱で構成しています。一つは、沖大の理念実現・特色化に取り組む「重点課題」です。長期ビジョンの4テーマを掲げています。二つ目は、沖大の持続的運営の要となる「基本戦略」です。前計画から4つの主要テーマを引き継いでいます。これら8つのテーマは、年次計画で具体化していきます。

第五次では、3つの方針を起点とした教学マネジメントに取り組めます。どのような学生に卒業を認めるのか、どのようなカリキュラムで学生を教育するのか、どのような基準で学生を受け入れるのか。これら3つの方針で教育の質を保証するサイクルを整え、それが沖大の理念に繋がっていることを表現していきます。

2018年度外部評価委員会(第4期)開催

外部評価委員に、中期計画を中心に本学の活動についてご意見を伺いました。

3月4日、外部評価委員会(委員長 沖縄県立芸術大学 比嘉康春学長)を開催し、①第四次中長期経営計画の総括、②第四次～第五次への展開、③長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」の策定、④第五次中期計画の策定、⑤3つの方針を起点とする教学マネジメント、等について説明し、委員の方々からご意見やご

助言をいただきました。

質疑では、第四次の自己点検・評価結果を第五次に反映できているかという確認や、沖縄大学の理念実現についての評価は、学内だけでなく地域の利害関係者の評価も受けることで、地域共創の理念を知ってもらい、広める機会になるといったご助言をいただきました。



外部評価委員会で冒頭の挨拶をする仲地博前学長

新任教員紹介



沖縄の人と自然に向き合うために

法経学部 法経学科教員 (生物保全学)
城ヶ原 貴通

縁あって、今年度より沖縄大学でお世話になることになりました。私の専門は鳥類哺乳類を中心とした保全生物学になります。絶滅危惧種保全はもちろんのこと、マンギースに代表される外来種防除も含んでいます。今は絶滅危惧種であるオキナワトゲネズミ(世界で沖縄にしか棲んでいない)の研究を進めつつ、南西諸島絶滅危惧種プロジェクトを主導し、ヤンバルクイナやヤンバルテナグコガネの研究者と共に研究に取り組んでいます。南西諸島は生物多様性が高い一方で、脆弱な生態系といわれるように、この貴重な環境は簡単に壊れてしまいます。そんな沖縄の生物多様性を含めた環境分野の教育・研究に取り組む、地域共創・未来共創に貢献していきたいと思えます。



学生と一緒に今後の沖縄振興の行方を考えたい

法経学部 法経学科教員 (行政学、自治体学)
島田 尚徳

私は、本土で学生生活を送った後、帰沖し、新聞記者やシンクタンクの研究員として、政策立案過程の取材や政策立案に向けた支援等を行うと同時に、政策立案過程の分析等を行ってきました。今後は、このような経験を活かし、沖縄振興の課題や方向性について研究を続けていくとともに、教育においては、学生にも今後の沖縄社会について一緒に考える機会を提供していきたいと考えています。そのためにも、「政治の世界」や「行政の世界」を身近に感じてもらえるよう事例を交えながら、伝えていきたいです。

退職者紹介



法経学部
法経学科
仲地 博

「地域を研究する教員が少なくなっている。沖縄大学に出来ないか」と新崎盛暉先生に声をかけられたのが2008年のことです。琉球大学の定年まであと2年残しておりましたが、望まれるところで働くのが幸せだろうと、あまり迷いもなくこの話に乗りました。

沖縄大学の教育力に関心もありました。琉球大学時代、大学教育センター長を務めたことがあり、文部科学省が推奨した教育改革のためのGP(全国大学の模範となる優れた教育改革の実践)に力を入れて(そして自信もあり)2度応募したのですが採択されなかったところ、沖縄大学は一挙に4件も採択されたのでした。たぶん悔しかったのでしよう、学内で話題にしませんでしたが、「沖大はなんですか」と内心思っておりました。その後沖大はさらに3つのGPを獲得します。沖縄大学に来てわかったことは、風通しの良さ、そして企画力があり実践の良さを、そしてできるまとまりの良さです。

研究のひろば

ハッピーに「働くこと/働いてもらうこと」

ハッピーに「働くこと/働いてもらうこと」は可能でしょうか。もし可能であるなら、どのような条件が必要になるのでしょうか。私の研究課題の中心はここにあります。

これは難問です。「ハッピーな経営」を思い描いても、必ずしもそれが職場にフィットするとは限りません。労働時間、働く場所、仕事の中身、職場の人間関係、賃金など、人びとの動機は千差万別ですし、時に応じて変化もします。一人ひとりの動機を満たす経営はなかなか難しい問題です。

そこで、ひとまず私は研究対象を日本企業に限定して、その職場にはどのような特徴があるのかを、可能な限り掘り下げて見ることに注力しています。そこに共通する傾向や志向性があるならば、少なくともそれらをふまえて「ハッピーな経営」を考える必要があるでしょう。

例えば、働くという行為は世界中どこにでもありふれています。しかし、「働き方/働かせ方」はどこでも同じではありません。とりわけ日本は変わっています。就業時刻のあと、上司や同僚が仕事を続けていたら、自分だけ先に帰れるのでしょうか。気まずさや後ろめたさを感じるとしたら、日本的働き方をしている可能性が高いといえます。

あるいは、休日に街中で社長に会ったらどのように声をかけますか。「〇〇さん」と呼びかけますか。それとも、「〇〇社長」と呼びかけますか。会社を辞めた後にも「〇〇社長」と声をかけますか。もし後者であるならば、それはおそらく日本的な働き方をしているからといえます。

ここで詳しく述べている紙幅はありませんが、AKB48やモーニング娘。などのアイドルユニットには、なぜ「卒業」があるのでしょうか。日本のヒーローものは、なぜチームや「戦隊」を組んで悪と戦うのでしょうか。これらの「しきたり」にも、「日本的」な傾向や志向性が現れています。

私はこのような「日本的」の中身を捉えつつ、ハッピーに「働くこと/働いてもらうこと」を探究しています。



法経学部 法経学科 准教授
石川 公彦

わがゼミナール



人文学部 こども文化学科 教授
喜屋武 政勝

こどもたちの「ことば」を鍛えるために

「国語」という教科については、どなたも何かしらのイメージや記憶があることでしょう。物語の音読、漢字の書き取り、作文、習字、文法…。ところが、実際に小学校の教室で、どのような「国語」の授業をつくっていくか、となると、小学校の教員養成課程である本学科の学生にとってもなかなか手ごわいところがあるようです。いざ教える立場にたつとなると、戸惑いや不安が生じてくるのは、どの教科も同じだとは思いますが、「国語」のばあい、それが特に際立っているように思われます。おそらく、教える内容が、わたしたちが、ふだん空気のような存在として、ほとんど意識せずに使っている「ことば」であることに関係しているからでしょう。「ことば」、ここではもちろん「日本語」をさすわけですが、わたしたちが母語としての「日本語」を意識することは、読めない漢字に出合ったときや、敬語の誤用に気づいたとき…ぐらいで、あとはまったくあたりまえのものとして使っているのではないのでしょうか？

わたしが担当しているゼミ(1年~4年)では、いずれも、学年に応じて「国語」の授業づくりのための学習

を行っています。前述の内容に関連づけて言いますと、こどもたちの「ことば」を鍛えるために、学生自らが「ことば」について意識的になることをめざしています。

たとえば、「米洗う 前を 蛭が ふたつみつ」という俳句は、「米洗う 前に 蛭が ふたつみつ」との比較のなかで、しばしば引き合いに出されるのですが、その表現の違い。また、「友達に 相談する」と「友達と 相談する」との違い…。このような、いわゆる助詞(助辞)ひとつとっても、「ことば」に立ち止まって、その面白さに気づき、さらにそれが動機づけになって、近い将来、こどもたちにも「ことば」の世界の豊かさを伝えてほしい。そんな願いが、「国語」の授業づくりに悪戦苦闘しているゼミの学生のみならずにはありますし、その期待に応えてくれるように、熱心に勉強してくれています。



リレーエッセイ第15回

大人の自分と子どもの自分

総務課 田代 真紀



こんにちは。総務課職員 田代です。4月は人生節目の時期。

沖縄大学を卒業し社会に巣立った皆さん、進級した在学生の皆さん、今年本学に入學した新入生の皆さん、それぞれが新しい環境の中、気持ちも新たにしていることと思えます。そんな、10代、20代にいるかたがたに向けて、書きたいと思っています。

大人としてやるべきことをしっかりとやることは、子どものじぶんを静かにさせて、しっかりやったりということ。大人のじぶんと子どものじぶんが戦っている。子ども地味いし、大切なんだと思う。子どものじぶんはつきり意識したことで、今のじぶんがすつと見えた気がします。よくがんばっている。大人の自分

もちろん全部の大人が、「子どもの自分」と戦っているわけではないです。「大人の自分」が確立して、立派な大人はたくさんいます。私の場合、「子どもの自分」を意識しながら、「大人の自分」をしている感が強い。

これから少しずつ、「大人の自分」をつくっていく皆さんに伝えたい。どうぞ、今の自分(気持ち)を大事にして、「子どもの自分」と会話しながら、日々過ごしてください。応援しています。

次回は、何かお願ひするときにだけ私のことを「先輩」と呼ぶ、地域研究所事務長の城間尚樹さんに繫ぎます。

明日は高校受験と、人生で大事な日を控えた夜、大好きなTV番組(ザ・ベストテン)がどうしても見たくて、「好きなアーティストが上位だったら、明日の試験はうまくいく」と願掛け。ランク外で出演せず、呆然とした中学3年生は、40年後には、苦手な仕事に取り組みむ際、「これを頑張れば、家族にいいことが訪れる」と、またもや根拠のない願掛けをして乗り切る大人になっています。

「じぶん」とは「子どものじぶん」で、「大人のじぶん」は「じぶんがつくったじぶん」。

沖縄大学創立60周年記念事業資金のための募金活動状況

沖縄大学は2018年6月10日に創立60周年の節目を迎えました。その記念事業として、学生食堂の新設、教育・研究環境の整備等に取り組んでいます。今般、広報誌の発刊に際し、2018年12月18日以降(2019年3月15日現在)に受け入れた募金についてご報告し、改めて御礼を申し上げます。本件掲載分については、広報誌等への掲載へのご了解が確認できたご芳名を報告させていただきます。※50音順。

企業・法人・団体	浦添 正光様 5,000	德里 勇夫様 20,000	與那嶺常世様 10,000
沖縄県軍用地等地主会連合会様 200,000	大城 眞徳様 20,000	友利 恵光様 5,000	支援同士の会
国場自治会様 30,000	大濱 慶子様 5,000	仲里 朝裕様 10,000	久保田照子様 10,000
後援会関係者(在学生の保護者等)	垣花 栄様 5,000	仲宗根 悟様 10,000	一般個人
伊良皆ひろみ様 5,000	川満 茂雄様 5,000	長浜 克宣様 5,000	宇栄原宗直様 5,000
上地 朝子様 10,000	我部 政貴様 10,000	藤本 明一様 5,000	親泊 元勇様 5,000
根間 俊之様 10,000	喜屋武 力様 10,000	前山田末子様 10,000	當眞 嗣朗様 5,000
同窓会関係者	金城 正美様 10,000	宮国 秀正様 10,000	仲村渠哲勝様 100,000
新垣 盛順様 10,000	慶田城京子様 10,000	宮平 憲二様 10,000	仲本 克巳様 10,000
新垣 紀夫様 5,000	古謝 景春様 10,000	銘苅 進様 20,000	花城 順子様 5,000
新垣 康史様 5,000	佐久本政順様 5,000	屋比久嘉光様 10,000	林 秀一様 5,000
阿利 正則様 5,000	佐久本洋介様 10,000	屋富祖繁幸様 5,000	その他
上原 静江様 10,000	島 清様 20,000	山田 貴様 10,000	瀬底 恵様 3,000
内間 綾子様 5,000	島袋 正治様 10,000	屋良 幸助様 10,000	
	高良 恒栄様 5,000	吉元 竜一様 20,000	

総額 33,759,400 円 総額については、匿名希望者のご寄附も含めた募金額です。

健康栄養学部創設寄附者ご芳名

このたび、健康栄養学部創設の趣旨にご賛同頂き、ご支援頂きました寄附者の皆様に心より感謝申し上げます。本件掲載分については、広報誌等への掲載へのご了解が確認できたご芳名を報告させていただきます。(2018年3月30日～2019年2月28日) ※50音順。寄附者総数：42名、法人・企業(氏名非公表者含む)

あがりえクリニック様 50,000	医療法人博愛会 牧港中央病院 理事長 洲鎌盛一様 50,000
医療法人彩の会 やびく産婦人科・小児科 理事長 屋比久武様 30,000	医療法人フェニックス博愛病院 理事長 仲本政雄様 50,000
医療法人一灯の会 沖縄中央病院 理事長 久場禎三様 30,000	医療法人ゆうりな かおる小児科 理事長 吉田馨様 100,000
医療法人上里整形外科 理事長 上里博光様 10,000	医療法人ヨシ惟 いきいき耳鼻咽喉科 理事長 喜友名朝盛様 500,000
医療法人宇富屋 玉木病院 理事長 宮里好一様 50,000	医療法人琉心会 理事長 島袋茂照様 100,000
医療法人大平会 理事長 嶺井美奈子様 100,000	上原秀政様 20,000
医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院様 50,000	沖縄医療生活協同組合 中部協同病院 院長 与儀洋和様 30,000
医療法人恩和会 恩納クリニック 院長 玉城徳光様 10,000	嘉数胃腸科外科医院 嘉数昇康様 30,000
医療法人貴和の会 理事長 砂川博司様 50,000	くばがわメディカルクリニック 院長 久手堅憲史様 10,000
医療法人真仁会 真栄城耳鼻咽喉科様 10,000	社会医療法人敬愛会 理事長 宮里善次様 30,000
医療法人寿仁会 沖縄セントラル病院 理事長 大仲良一様 10,000	首里眼科 院長 宮平誠司様 10,000
医療法人十全会 おおうらクリニック 理事長 大浦孝様 10,000	田仲医院 田仲秀明様 30,000
医療法人すこやか会 院長 新垣義清様 10,000	中部徳洲会病院 院長 伊波潔様 30,000
医療法人正清会 理事長 久田研二様 30,000	友寄英雄様 50,000
医療法人野毛会 もとぶ野毛病院様 50,000	西平医院 西平守樹様 10,000
医療法人晴明会 糸満晴明病院 理事長 稲富仁様 50,000	はいさいクリニック 院長 石田吉樹様 10,000
医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院 理事長 宮里好一様 20,000	ひがハートクリニック 院長 比嘉耕一様 10,000
医療法人タピック 宮里病院様 20,000	古堅善亮様 50,000
医療法人那覇西会 那覇西クリニック 理事長 玉城信光様 100,000	三原内科クリニック 院長 喜久村徳清様 5,000
	山城一純様 100,000

総額 1,985,000 円 総額については、匿名希望者のご寄附も含めた募金額です。

広報誌創刊から40年…

あの人はいま

沖縄大学広報誌は1979年4月20日に創刊号が発刊され、今年で40年目を迎えます。

学内の取り組み、学生のコメントが多く編集されている創刊号。その中で当時立命館大学へ国内派遣制度を利用して1年間派遣された「大浦達治さん」に取材させていただきました。



1982年1月に沖縄総合事務局に入局。これまで農林水産省のある鹿ヶ間、那覇、宮古、石垣等の勤務地でお仕事をされてきました。2018年3月で定年退職を迎えましたが、現在は専門職として勤めています。

Q 40年前の沖大はどんな大学でしたか

とても活気がありました。普通高校出身の学生よりも実業高校からの進学が多かったかもしれません。宮古高校から沖縄大学に入学した私は面白いパラダイムに感じました。私は法律研究会に所属していて、法律の勉強はあまりした記憶はないのですが、キャンパスや先輩との交流活動などが活発で、とても良い大学生活が送れたと思っています。

Q 大学時代、一番の思い出は何ですか

やはり、立命館大学へ一年間派遣されたことです。法律の世界では有名な大学ですし、京都大学の先生も授業を教えていたのですが、教科書の著者の先生から直接学べるというのはとても貴重な経験でした。行くまでは勉強についていけないかと心配もしていましたが、実力の差は感じませんでしたし、きちんと単位取得もできました。立命館大学には14名が沖縄大学から派遣されたのですが、大学でしか会わず、それぞれが京都生活を謳歌していたと思います。

Q 大学時代に夢や就きたい職業などありましたか

仕事はなんでも一生懸命やるという気持ちだったので、就職試験は企業や公務員、幅広く受けていました。沖縄総合事務局に面接で呼ばれたときに「全国規模で異動ができることが沖縄総合事務局の魅力なので、志望しました」と話をしたら、当時の人事課長に「大浦くんはめずらしいね」と言われました。沖縄の学生は沖縄にすっというのが多いようですね。

Q 後輩となる学生にひとことお願いします。

今やっていることに一生懸命に取り組んでほしいと思います。例えば苦手なこと、好きでないものでも好きになるように努めたらきちんと身につきます。人生は無駄はありません。私の人生も振り返るとマイナスはなかったからです。

沖大に望むことは

とても学生ががんばっているなと思います。沖縄大学は個性的なところが魅力だと思うのでこれから独自性を発揮してほしいです。

期待しています!



大浦 達治さん

1981年(3月13日) 沖縄大学法経学部法学科卒業
1982年(1月1日) 沖縄総合事務局入局
農林水産省本省などに赴任、全国規模の業務を手懸ける
県内の事業ではマンゴー農家の補助事業や農業関係施設の補助事業を主に担当
1992年 35歳のときに同郷の奥様と結婚
1995年 38歳のときに長男誕生
2018年 定年退職、その後専門職として再任用
現在 故郷宮古島のために何かを手がけたいと夢を抱き人生を謳歌中!

沖縄総合事務局は、1972年5月15日の本土復帰と同時に、沖縄の振興開発を一元的、効率的に推進するため、沖縄開発庁の地方支分部局として設けられ2001年1月6日の省庁再編により、内閣府の地方支分部局として設置されました。その仕事は、ダム、道路、港湾、空港などの整備、農林水産業の基盤整備等の公共事業やその他沖縄の振興に直接関係のある各省庁の地方支分部局の仕事幅広く含んでいます。

大浦さんをよく知る同僚の方のコメント

以前は女性が少ない職場で、そのときの上司だったんですが、丁寧に教えてくれて、とてもお世話になりました。人望が厚く、とても立派な方です。



大浦さんは生まれつき小児麻痺で右足が不自由なのですが、持ち前のチャレンジ精神で、人生を切り開いてきたように取材をして感じました。沖大在学中に国内派遣を利用し京都で学び、その後全国的な視野で仕事を勧められてきた大浦さんの話を伺い、沖大生にも全国、世界に向け果敢にチャレンジして欲しいなと思いました。(経営企画室 玉城)

記念すべき節目の年に、広報誌は既存のスタイルのものとは別に新たなサイズで印刷し、在学生や高校生にも手にとりやすい冊子も制作していきます。今後是非ご愛読ください。

新入生へのメッセージ



大学院へ
ようこそ

大学院
現代沖繩研究科長
宮城 公子

大学院という、困難と楽しさの道を選択してくれて感謝します。日米の大学院を経験した自らをふり返っても、大学院での研究や交流の日々は刺激に満ちながら、指導教員や友人に支えられ、あるいは支え合う貴重な時だと思えます。専門的知見を深め、また自分を論理的に批判できる言葉の力を身につけ、たとえ将来研究者職に就かずとも、社会に積極的に関わることのできる市民となつてほしいと思います。また、皆さんの刻苦勉励を常にサポートしていきます。



創意・工夫した
大学4年間を

人文学部長
宮本 晋一

皆さん、入学おめでとうございます。理想的未来は自分自身の中にあり、同時に、その達成に対するもろもろの課題もまた、自身の中にあります。どのような課題も「自分で考える、自分で調査する、自分で判断決定する、自分でやり遂げる」。この自主確立・四戒を基準にして学業に精進してください。私たちもさまざまな角度から物事を見つめ、個々の創意・工夫を駆使した新しい物の見方・考え方が習慣化できるように支援してまいります。つねに他人と一味違うように創意・工夫した大学4年間となることを願っています。



自分自身を成長させる
貴重な時間

法経学部長
若林 千代

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんをキャンパスに迎えて、教員一同、大変うれしく思っています。大学生活の四年間は、人生全体からみれば短い時間です。しかし、社会に飛び出す一歩手前で、トライ&エラーを積み重ね、さまざまな気づきを得て、自分自身を成長させることのできる貴重な時間です。授業や課外活動、読書を通じて知的な基礎を作ると同時に、つまずきや不安を乗り越えて、自分の頭で考え、自分で動き、他の人たちと助け合うことが大切です。日々、少しずつ背伸びをして学んでみましょう。いつのまにか、より高いところに手が届くようになっていくはずですよ。応援しています。



SERENDIPITY
(偶然の幸福な発見)

人文学部 国際コミュニケーション学科長
伊藤 丈志

ご入学おめでとうございます。30年以上も前になりますが、私も皆さんと同じように大学生になりました。すぐに予想していた環境とは違っていることに気づきましたが、一方で、自分の予想もなかった世界があることを知る機会になりました。こういう予想外の幸運な発見を英語でserendipityといいます。皆さんも入学後、予想外のことに直面するかもしれません。そんな時、これは自分にとってのserendipityではないかとぜひ考えてみてください。



法経学科新入生のみなさんへ

法経学部 法経学科長
豊川 明佳

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんの未来には、無限の可能性が広がっています。大志を抱いて、充実した大学生活を送ることを期待しています。これからの時代、様々な変化に対応していかなくてはなりません。社会のあらゆる課題を発見し、物事の本質を正面から見抜き、その課題をたくましく解決する能力が求められています。大学は皆さんの可能性の芽を伸ばし、開花の手助けをする知の拠点です。皆さんが沖縄大学を起点として、着実に実力を蓄えて、飛躍し、自らの夢を実現することを心から願っています。そのために私たち教員も全力で応援していきます。



こども文化学科 第13期生の
みなさんへ

人文学部 こども文化学科長
喜屋武 政勝

こども文化学科新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。昨年度も、みなさんの先輩方は大健闘し、沖縄県小学校教員採用試験において現役生19名、既卒生8名の合格者を輩出することができました。加えて、臨時的任用教諭や非常勤講師、学習支援員として、また、学童の支援員や塾から教育現場でのキャリアをスタートさせる卒業生もいます。一般企業への進路選択者も含め、みなさんの大事な4年間を学科スタッフ全員で応援します。



ようこそ福祉文化学科へ！

人文学部 福祉文化学科長
島村 聡

福祉を学び、社会課題となっている高齢化や貧困問題に立ち向かう心意気、そしてスポーツを通して沖縄の健康課題に取り組みとうとする姿勢に学科を代表して敬意を表します。皆さんが挑む目標は高いところにあります。が、そこまで上り詰めていくために多くの人の支えが必要です。勉学に励みつつ、友人と語り、福祉関係者など多くの人たちと交わる機会を持つて幅広いネットワークを築いてください。我々教員も全力でサポートします。